

『THE BOOK OF TEA』と『茶の本』： What is tea?

■講座内容

岡倉天心の著作『THE BOOK OF TEA』（原書）とその翻訳である『茶の本』を読み比べ、岡倉天心が西洋に広めたかったお茶の魅力、その神髄とは何なのかを考えてみましょう。『THE BOOK OF TEA』は1906年（明治39年）に英語で出版され、その後、多くの和訳書が発行されました。（※少なくとも1929、1936、1938、1961、1994、2005、2014年のものがあります）本講では、グループディスカッションを中心に、様々な翻訳者によって出版された『茶の本』を比較しながら、その解釈を探ります。

「岡倉天心が現在の少子高齢社会である日本の茶道文化を見たらどう考えるのか」など、講師と受講者の皆さんとで問題点を共有し学びあい、その相乗効果によって新たな発見や創造につなげていきましょう。

※お申し込みの際、岡倉天心著『茶の本』を既にお持ちの方は、その翻訳者名をお知らせください。もし、お持ちでない場合は、購入書を推薦いたします。

※コース終了後、後日、芦屋釜の里を訪問予定。（希望者のみ・入館料別途）

■講師

Tim Cross 福岡大学人文学部教授
（能古 宗拝 茶道南坊流教授）

開講日時	第1講:10/30(土) 10:00~11:30 第2講:11/6(土) 10:00~16:00
対象・定員	一般の方 30人程度 ※前提となる知識は必要ありませんが、グループディスカッションに積極的に参加することが求められます。
会場	福岡大学 第1講目のみ:福岡東洋陶磁美術館(福岡市城南区七隈8丁目7-42:福岡大学北側)
受講料	2,000円 ※福岡東洋陶磁美術館入館料は各自でお支払いください。
テキスト	Kakuzo Okakura『THE BOOK OF TEA』(1906)(原書)はこちらで準備します。和訳書は各自でご用意ください。詳細は講座開始後に案内します。
受付・申込方法	下記の二次元コードから申込フォームにアクセスしてお申し込みください。申込専用電話(092-871-6728)でも受け付けます。(2ページの申込方法参照)
※新型コロナウイルス感染症の影響により、WEB会議ツール(Webex)を使用した、オンラインでの開催になる場合があります。そのため、講義内容など一部変更になる場合があります。予めご承知おきください。	

